

介護体験を



聞く会



ホームページ
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

会報第203号

平成30年12月15日発行

発行所…(有)明寿会

住所…川崎区中島1-13-3

電話044-2333-0061

*12月は22(土)日です

護される。

*入居されて約1ヶ月ですが、

他の利用者さんやホームの環境にも慣れ、ご家族の来訪後は多少の混乱はあるものの、すぐにいつものUさんに戻っています。

今後とも体調面や認知症の症状に気遣いながら、Uさんらしく生活できるように柳田グループ全体で見守っていききたいと思います。

U様事例検討

息子さんの独立やご主人の入院等の精神的ストレス等を契機に認知症症状が現れた方の検討。

◎平成21年(58歳頃) 認知症症状が現れ、平成24年くらいに清掃の仕事で退職。平成29年12月柳田デイケア室を利用、週三回利用、後には週5回になる。

平成30年8月柳田デイケア夏期休業中に一人でお外出。道がわからなくなり富士見公園派出所の警察官に保護される。平成30年10月グループホーム旭町入居される。

◎入居前後
電話での来室呼びかけ

は応じることがなく、来室中に、鍵の施錠の心配でデイケア利用中の帰宅要望が増えた。また実際に施錠されていない日も出た来た。そのため来室の迎えのみ職員が一緒する事になった。その後、帰りについても自宅まで到達後のカギの開錠が困難で部屋に入れないことが確認されたため、送迎共に職員と行うことになる。

*それまで 自宅では冷蔵庫に犬の汚物用シートが入っていたり、自宅にいながら「家に帰らなきや」等の訴えがあり、フルタイムで働く娘夫婦の負担が増大していた。

また、柳田の夏季休業中、デイケア室休み中に家族が昼食を用意しているが、食べ物がないとご近所に相談にいたり、家がわからない等があつて、

ドネペジル塩酸塩OD錠3mg 朝1錠
ミカムロ配合錠 朝夕 各1錠
*へ生い立ち
昭和25年 山形県にて出生
昭和40年(15歳) 中学校卒業
ヤマザキパン戸塚工場勤務
昭和48年(23歳) 結婚
昭和49年(24歳) 長女誕生
昭和52年(27歳) 長男誕生
東京電力検針担当にて勤務

その後ご主人が脳梗塞で倒れる。編み物教室に通うなどした
*平成21年(58歳)頃 認知症の症状が出現
平成23-24年清掃の仕事。
平成29年10月 柳田敬老文化祭に参加
平成29年12月 柳田デイケア利用開始
週3回、後に週5回
平成30年 8月 柳田デイケア夏期休業中に一人で外出し、富士見公園派出所の警察官に保護される。

*現病歴
*アルツハイマー型認知症(平成23年1月)
*内服薬



「旭町小学校『あさひこまつり』に参加して来ました」

11月17日(土)に旭町小学校で行われた『あさひこまつり』にデイケア・デーサービス・グループホームから数名ずつ参加して来ました。

向かった体育館では小学生の皆さんが誘導し、的当てやボーリング、箱の中の物当てゲームを楽しみました。普段より旭町小学校の皆さんと交流があるため、とある利用者さんは「あれ、あの子はこの前デイケアに来てくれた子だね!」と覚えていたり、「あんなに遠くに投げられるかしら...」と戸惑う利用者さんに少し前で投げさせてくれたり、箱の中身を充てるゲームでは少しヒントを出してくれたり、「こちらの方が簡単にできますよ」と気さくに声をかけてくれたり、普段の交流があるからこそといえると思うのですが、小学生たちの柔軟な対応ぶりに感心しつつ小学校をあとにしました。

小学生を取り巻く環境の

中に、多くの高齢者や障害を抱えた方も多いと思います。継続して交流をすること、互いに理解しあうことが自然な姿になつていく。と改めて感じた交流行事となりました。

(文責・柳田デイケア 杉山)

菊花展に行きました

十一月九日に川崎大師の菊花展に見学へ見学に行きました。車二台に便乗して川崎大師に着き、見学をして皆さん「すごく綺麗。」と言つて楽しそうにじっくり見学していました。Sさんは以前お花の先生をしていた様でとてもお花に詳しく、菊を作るのは手間暇がかかります。皆さんとても感激していました。

柳田デイケア

金城

クスノキ

作詞作曲・福山雅治

我が魂は この土に根差し
決して朽ちずに 決して
倒れずに

我はこの丘 この丘で生
きる
幾百年越え 時代の風に
吹かれ

片足鳥居と共に
人々のいとなみを 喜び
を悲しみを
ただ見届けて

我が魂は 奪われはしない
この身折られど この身
焼かれども

く間奏く

涼風も 爆風も
五月雨も 黒い雨も
ただ浴びて ただ受けて
ただ空を目指し

我が魂は この土に根差

し
葉音で歌う 命の叫びを

福山雅治

福山雅治氏のクスノキという「有名な」歌がある。有名というのは、ただ私が知らなかったからである。歌を聞いたり自分でうたっているうちに次第にこの歌が、民族の魂を歌っていることがわかった。逆に知らなくて恥ずかしい衝撃をうけたのである。若い職員から年配の職員にも聞いてみたが、ほぼ全員が知っていた。それほど彼は現在の風に乗っていたのである。民族の魂や、民族の叫びを文章に書いた詩人は多くいるが、実際に自らの体験を歌にして自らがその魂を歌う人はいなかった。活字としてだけではなく、声を歌にして現在の青年達にも訴えかける人は初めてである。長崎に生まれ、両親は放射線や爆風、黒い雨を浴びたが、それでも自らの大地をまもり、生活をつづけていくのだという魂



あさひ子祭りで交流風景

を受けついできた。本来なら長崎の豊かな自然と海で豊かな人生をまとうできたはずの人々、長崎数十万の人々の命を8月7日に打ち切った原爆投下者こそ、人類の裁きをうけなければならぬのである。今後歌い続けられて、広島、長崎の惨状の写真と共に忘ず、歴史の真実を研究して現代に生かしでほしいものである。

漢方について（柳田）

「針刺麻酔」

漢方をやりはじめてまだ10年くらいである。それまでは中国鍼治療を30年くらいやってきた。中国鍼はその根本が針刺麻酔である。中国で針をつかって麻酔をやり、その結果、手術などが副作用なくできるということ、当時は日中国交回復のブームなどと重なって一大世論をまきおこした。私も大学卒業前後のころで、目を輝かして勉強したものである。自分自身にも鍼治療をし、試してみたりもした。

けると自然治癒もある。しかし針をつぼにうつと比較的即効性がある。これは急性のぎっくり腰と同じ原理。問題は運転していて運転席の窓をあけて顔面神経を冷やすと神経麻痺を起こす。これも気を付けているとならないと思う。

この針刺麻酔でわかったことは、人間の神経の作用と原理である。刺激の量の蓄積は、一定継続すると麻痺効果を生ずることである。

現代医学の薬物麻酔は苦痛が少なく、安全に行われることで針刺麻酔はすたれていった。しかし、この針刺麻酔研究で得られた知見は今後生かされることになるだろう。

「漢方の効果」

鍼治療を30年くらいやったあと、今度は漢方が中心になった。というのは平成20年から介護保険がひろがり、介護が必要な方が急増したからである。もともとせまい施設なので、鍼治療をしているとベットが必要であり、治療効果に一人約

15分から20分かかる。次第に鍼治療から介護対応に変わっていった。

そうすると今度は認知症というもつと大変な課題が登場してきた。川崎の聖マリアンナ医科大学の長谷川先生の講演をきいたり、本をよんでいると、簡単ではないことが次第にわかってきた。しかもその数が大変なことになることもわかった。

もともと認知症は高齢化とともに増えるし、日本が薬好きの民族であることと、国民皆保険制度と連動し、世界の製薬産業が日本を薬売り込みのターゲットにしていることなども関連している。そこでは私が関心ある漢方は日陰者になっている。ほとんどが西洋薬で、近年はとくに大脳をねらった薬物が開発されていき、本来大脳という大事なセクタンターには入らない薬物を、大脳の関門を突破していくように研究している。世の中もストレスや不眠が常態化していき、ますます大脳の関門を超えていく薬物が大脳に流れ込んでいく。

私が研究しているのは、認知症を漢方的に診断できないかということである。明らかな腹症というものにはまだ明らかではないが漢方的な胸脇苦満とか於血などの症状がある人に漢方を処方すると、少しずつ睡眠がとれるようになってきたり、体調がよくなってくる。

それがめぐりめぐって認知症の進行を止めたりするのでないかとかんがえている。

「音楽療法」

認知症に音楽療法が効果がある。もともと音楽や歌を歌うことが好きなので、患者や利用者に押しつけたように音楽を聴かせたり、歌を一緒に歌ったりしている。

大脳の機能を検査する方法が進歩しているが、音楽が古くから人類は親しんでいる。大昔の洞窟生活時代でも楽器のような壁画を描き残している。現代社会がストレス社会というわけでもないが、若い人は耳からヘッドフォンをつけて歩いている。最近では福山雅治という人のクスノキという音楽

を高年齢者のデイケア室で歌っている。この内容を調べてみると、日本民族の誇りがよみがえる。両親が原爆にあつて時速数百キロものの爆風を浴び、放射線を浴びて、父親はがんを発病した経験をもっている。すごいのは自分の大地から数百年かけても生きていくのだという、民族の意地であり、その大地から吹き飛ばされないう意地である。何世代にわたっても民族の発展を目指していくという意思がこもった歌を2世の若い人が歌い、人々が口ずさんでいることがすばらしい。

クスノキ



現代医学の診断基準は機械検査だが、漢方の基準は腹症である。もちろん全身をみたり、声の張りぐあいをみたりもする。要するに全体的なエネルギーの充実具合で虚弱か充実しているかを判断するのである。その虚実に対応した漢方薬を処方する。教科書の「腹証奇覧」は1800年（寛政12年）稲葉文礼が著した。

80
八味丸の證 (後編下冊)

[illegible]

桂枝湯頭項強痛圖 (真 初編下卷)

竹垞自校名

頭項強痛

項背強

88-I 覆手堅按法 灸拊循法圖 (灸 拊循下指)

又覆手
ニテ輕ク
皮膚ヲ
拊循スルヲ
滑瀉痢瘰ヲ
診スルノ法ナリ。

覆手堅按法 灸拊循法圖 (灸 拊循下指)

國ニテ又覆手ニテ壓拊スルヲ
心脾腹内ノ諸瘰ヲ

88-II 二指探按法圖 (前) 初指下指

圖ノバクニ三指ヲ側ニ指頭ヲ
微動シテ之ヲ按ス腹皮内ノ
筋ヲ結聚スモノヲ當ニシ
且其結聚スル
痛ト痛花ヲ辨ス
若其物微小ナル
覺ハバ中指ノ頭ヲバシテ
カク探ヘン
又三指ヲ用ヒテ直ニ腹底ニ按ニ到ル
腹底ノ筋ヲ結聚スモノヲ當ニシ
正按法トス

The illustration shows a doctor in traditional Japanese attire (a white robe and a black eboshi hat) kneeling and examining a patient's abdomen. The patient is lying on their back, with their head resting on a patterned pillow. The doctor's hands are positioned on the patient's midsection, demonstrating the 'two-finger probing method' (nissu shirushi). The patient's abdomen is covered with a white cloth, and a small, dark, circular mark is visible on the lower right side of the abdomen, likely indicating a point of interest or a lesion.